

まえがき

2020年代、世界は思いがけぬコロナ禍に見舞われ、ロシアによる国際法無視のウクライナ侵攻、避難民続出、核への恐怖等々、新たな混沌の時代に入った。だが人類は、新たな精神文明に入るキッカケを得たのではないか。

本書は入門書であるが、趣意は、端的には、平和維持、戦争回避には、核兵器（科学）や法（論理）の抑止力ではなく、シェイクスピア劇（文芸）などに見られる精神性・霊性が一つのヒントになるのではないか。人類の精神進化に向けて。

- 父親同士の長年の怨恨を子らが和解に導く『ロミオとジュリエット』
- 横暴なる独裁者の哀れな最期を描く『リチャード三世』
- 人間の獣性を嘆くコメデイ『お気に召すまま』
- 恋人オフィーリアの墓前で、生死について悟りを得る『ハムレット』

- 無（真心）から最高の有が生ずる『リア王』
- 殺しの後には眠りは来ない悲劇『マクベース』
- 死からの再生を描く悲喜劇『ペリクリーズ』『冬の夜語り』『テンペスト（あらし）』
- 作者引退後の正史劇。「笑いではなく真実を」「ヘンリー八世』

古代から十七世紀にかけてのヨーロッパ各地が舞台であるが、テーマは極めて今日的。

二十一世紀、物質・科学文明から、それらを生かした新たな精神文明への転換が期待されている。今こそ世界最高の文芸シェイクスピア戯曲である。

そこで彼の名作十三篇を「わかりやすく、簡潔に」、口語による「現代能」に翻案した。能に親しみのない読者には新発見となるであろう。大作をどう読み直すか。舞台をどう鑑賞するか。そのキツカケともなるであろう。名セリフには、所々に英語原文を添えた。

またすでに舞台上演された曲（『ロミオとジュリエット』『ハムレット』『オセロー』『リア王』など）については、批評の一部を掲載させていただいた。能鑑賞の鍵は観客の想像力にある。まして本書は「能台本を読む」のである。諸氏の評言が大いに助けになる

であろう。

「生か死か、それが問題」が「生死しやうじはもはや問ふまでもなし」に転換されるのが『能・ハムレット』である。これまでの常識や知識や論理に囚われず、イマジネーションを働かせ、新たな芸術体験・人生体験もしくは宗教的体験をされることを期待している！